



## 企画展

# 福井藩の御用絵師・狩野元昭 もとあき

●会場 1階 松平家史料展示室

●会期 令和8年4月17日(金)  
～令和8年6月7日(日)

江戸時代、幕府や諸藩では絵画御用を担う絵師を召し抱えており、多くの藩では幕府の絵画制作を担った狩野家（奥絵師：中橋狩野家・鍛冶橋狩野家・木挽町狩野家・浜町狩野家）に学んだ絵師を御用絵師としていました。福井藩も狩野派の絵師2家を御用絵師として召し抱え、2家出身の御用絵師は16名を確認できます。その中で現在最も作品を確認できる絵師が、江戸時代前期（17世紀）に活躍した狩野元昭です。本展では、福井藩主松平家の永代菩提所・大安禅寺に遺された元昭作品を紹介します。

## 【福井藩御用絵師 福井狩野家と奈須家】 なす

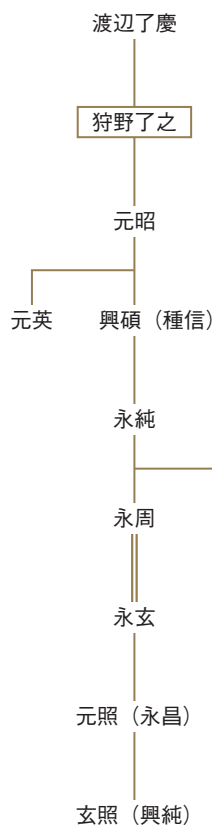
江戸時代を通じて福井藩の御用絵師を勤めたのが、福井狩野家と奈須家です。

最初の福井藩御用絵師の記録は、寛永15年（1638）3代藩主松平忠昌が召し抱えた狩野了之（九兵衛、?～1660）で、福井狩野家の祖となりました。了之の父・渡辺了慶（了桂・了敬、?～1645）は狩野光信の門人で、西本願寺対面所障壁画ほか京都の寺院の障壁画を制作、晩年に肥前国平戸藩に招かれました。了之も父と同じく光信に学んで狩野の姓を許され、同門の高弟・狩野興以の娘を妻にしており、光信の有力門人として京都で活躍しました。了之は忠昌に200石で召し抱えられ、御用がない時は京都に留まることも認められつつ、江戸参府に同行するなど忠昌の側近くに仕えたようです。了之にはじまる福井狩野家は、家督相続と福井藩の所領が半減した貞享の半知が重なり、その相続が認められなかったために福井藩から一時離れますが、元禄7年（1694）に7代藩主松平吉品によって元昭の子・興碩が再度召し抱えられました。その俸禄は20～25石と大幅に減少したものの、幕末まで代々絵師として仕えました。

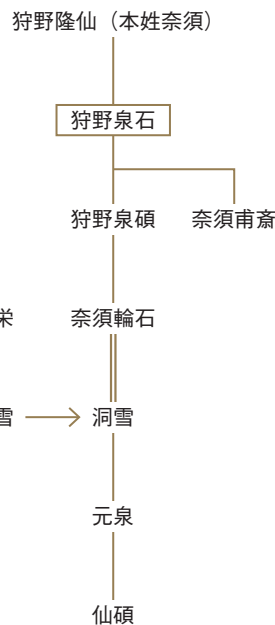
奈須家は、幕府の奥絵師で狩野宗家の狩野安信（中橋狩野家）の門人である奈須泉石にはじまります。泉石は寛文8年（1668）に4代藩主松平光通に150石で召し抱えられ、子の泉碩の代に俸禄は減少したものの、その子孫は代々福井藩に絵師として仕えました。

福井狩野家と奈須家は縁戚関係を結ぶなど緊密な関係にあり、両家の俸禄はほぼ同一で、席次は当主の年齢によっていたようです。江戸時代後期になると両家ともに確認できる作品や資料も乏しく、その活動は明らかではありません。

### 【福井狩野家】



### 【奈須家】



※ 狩野了之と 狩野泉石 は福井藩に召し抱えられた初代を示す。

|| は血縁関係を、| は養子関係を示す。

※ 良栄は御用絵師として召し抱えられていない。

※狩野光信（1565～1608年）

安土桃山時代の絵師。狩野永徳の子。父没後一門を率いて、豊田秀吉や徳川家康らの御用をつとめた。優美な花鳥画を得意とした。

※狩野興以（?～1636年）

安土桃山から江戸時代初期に活躍した。狩野光信の高弟の一人。光信とその弟孝信没後、孝信の子である探幽・尚信・安信三兄弟の絵画指導を行った。晩年に紀州徳川家に仕えた。

※狩野安信（1614～85年）

江戸時代前期の絵師。狩野探幽の末弟。將軍家の絵画御用をつとめる奥絵師の狩野4家のうち宗家である中橋狩野家初代。福井藩の御用絵師の多くは中橋狩野家に入門して絵を学んだ。

もとあき

# 【狩野元昭】

(元和9年～天和元年・1623～81年)

通称：九郎次郎 号：了海・即翁齋

福井藩御用絵師・狩野了之の子で、福井狩野家2代目。はじめ了之に絵を学んだ後、江戸で狩野安信に入門しました。承応2年(1653)に光通が18歳で初入国した際、31歳の元昭は父とともに登城すると、病気がちの了之に代わって絵画御用を勤めるよう命じられ、了之が万治3年(1660)に没するとその跡目を継いで150石で召し抱えられました。元昭が御用絵師に任じられた時期に建立されていたのが福井藩主松平家の菩提所である大安禅寺です。

大安禅寺(万松山大安寺)は、万治元年に光通が名僧・大愚宗築を開山に迎え、先祖供養のために建立した臨済宗妙心寺派の寺院です。現在も残る江戸時代の堂宇のうち、万治2年に完成した本堂の5室の襖や障子の壁貼付、広縁の杉戸74面に、水墨や彩色による仏画や山水人物画、花鳥画等が描かれています(当初は100面近くか)。『大安寺由緒略』(安永6年・1777)には「方丈 立具大床張付之絵元昭筆也」とあり、その画風からも本堂障壁画は元昭によるものとみられます。また、大安禅寺には歴代藩主や藩士から寄進された元昭筆の仏画や道具類も遺されており、元昭の画力や活動を知ることができます。これら大安禅寺に遺された元昭作品は令和5年(2023)に「大安寺伝来絵画類 狩野元昭筆」として9件が福井県指定文化財に指定されました。

元昭は5代藩主松平昌親、6代藩主松平綱昌にも仕え、藩主に付き従って江戸へも赴くなど側近くで絵画御用を勤めました。



源光通公御家中給帳  
松平文庫  
(福井県文書館保管)

※福井県指定文化財に大安禅寺本堂襖絵は含まれていない。



大安禅寺本堂室中襖絵 十六羅漢図(部分) 狩野元昭筆

### 主要参考文献

福田源三郎『越前人物志』玉雲堂 1910年(思文閣 1972年復刻)  
志賀太郎「福井の狩野派資料(一)」『福井市立郷土歴史博物館研究紀要』第9号 2001年  
戸田浩之「大安寺本堂の障壁画について」『大安禅寺伽藍』大安禅寺 2007年

展示解説シート No.184 令和8年4月17日発行  
福井市立郷土歴史博物館 〒910-0004 福井市宝永3-12-1  
電話 0776-21-0489 Fax 0776-21-1489  
担当：藤原千穂 印刷/宮本印刷

### 次回の展示

企画展 実践の儒学者・吉田東篁

令和8年6月12日(金)～8月2日(日)